復興〈災害〉

表題は塩崎賢明さんの岩波新書近著であり、副題は「阪神・淡路大震災と東日本大震災」である。塩崎さんは神戸大学時代から都市計画・住宅政策の専門家として、長らく阪神・淡路大震災の調査研究に関わってきた。現在、兵庫県復興研究センター共同代表理事、阪神・淡路まちづくり支援機構共同代表委員、それに日本住宅会議理事長を務めている。

本書は塩崎さんの災害研究の成果をまとめたもので、次の 3 部からなる。第Ⅰ部「復興の 20 年―阪神・淡路大震災のいま」は、創造的復興と復興災害をキーワードに、孤独死や再開発の問題点を検証する。第Ⅱ部「東日本大震災―いまとこれから」は、住宅復興とまちづくり、復興予算の流用に焦点をあてる。第Ⅲ部「阪神・淡路、東北から”次”への備え」では、今後の災害への課題を提言している。

本書のタイトル〈災害復興〉とはなにか。「はじめに」で次のように述べている。災害で運良く命を取り留めた人たちには、家を再建し生活を取り戻す「復興」という長い時間が待ち構えている。災害の発生や緊急対応は数時間から数日の勝負であるが、復興は数年から 10 年以上の長い過程である。その間に、力尽きて命を落としたり、家庭が崩壊したり、町や村が衰退したりすることがある。こうした災害後の被害を「復興災害」と呼ぶ。被害を少なくする減災のためには、事前の防災対策や緊急対応だけでなく、復興災害を防ぐための取り組みが欠かせない。それが本書のテーマである。とくに第Ⅱ部の住宅復興とまちづくりでは、塩崎さんらしく「復興は住まいから」「住宅はまちとともに」、災害時の住宅政策のあり方を詳細に検討している。それと復興予算の流用は、NHK 番組製作チームとの共同作業による調査結果が紹介されている。放映された NHK スペシャルの映像は、地方財政論などの講義で活用させてもらった。

本書は示唆に富む指摘や学ぶことが多いが、ここでは第Ⅰ部 4 の神戸市の新長田南地区再開発をとりあげたい。写真は 2 年ほど前に撮った新長田南地区の商店街アーケードである。ここは震災から 1 ヶ月後に訪れてから何回か来ている。講義でも写真や映像を使って紹介してきた。塩崎さんは「巨大再開発のもたらした復興災害」として新長田南地区を取りあげている。

新長田再開発は第 2 種再開発事業という強権的な事業手法がとられ、事業区域のすべての土地建物は行政に買い取られることが初めから決まっており、住民の意見がどうであろうと行政の思い通りに事業を実施できるのであった。地元業者は地区から転出するかビルに入るかの選択肢しかなく、地域が神戸市の西の副都心に生まれ変わって発展するという市の言葉を信じて、借金しながらビルに入って行ったのである。　　震災については、またレポートしたい。

（2015 年 1 月 10 日）